

浮世絵に見る薬と病やく



小田野直武写『解体新書』



鮮斎永濯「楽善堂三薬 補養丸、鎮溜飲、穩通丸、精錡水」(部分)

平成18年9 / 2 (土) — 10 / 29 (日)
 千葉市美術館 7階展示室 浮世絵版画・医学書など55点

午前10時〜午後6時 (ただし毎週金・土曜日は午後8時まで)

*いずれも入館は閉館の30分前まで 休館日◎第1月曜日(9月4日)・10月2日

主催◎千葉市美術館 特別協力◎千葉大学附属図書館亥鼻分館

観覧料◎一般200円(160円)、高校・大学生150円(120円)、小・中学生無料

(一)内は団体30人以上の料金 *「広重」二大街道浮世絵展の観覧券をお持ちの方は無料でご覧いただけます

「病やまい」はいつの時代においても人々の恐怖の対象でした。それは死へとつながる場合があったからです。しかし、時代がたつと、その「病やまい」を克服する「薬くすり」を人間が作り出してきました。しかしそれは、かなり高価なものでもあり、そこに「呪まじない」や神仏への信仰が行われる余地があったのです。

江戸時代には、医術も前時代よりはかなり進歩し、「病やまい」に対する「薬くすり」も多く出まわりました。「薬屋」という商売が成り立ったのもこの時代からと思われます。そこで、「宣伝」が必要になったのか、当時広く庶民の間に求められた「浮世絵」や「瓦版」が薬の宣伝に利用されています。

千葉大学附属図書館亥鼻分館には、往時に医学部で集められた、そのような「医事資料」が収蔵されています。そこで今回その一部を公開し、江戸時代の庶民の「健康観」を紹介いたします。



歌川国芳「通俗三国志之内 華陀骨刮関羽筋療治図」



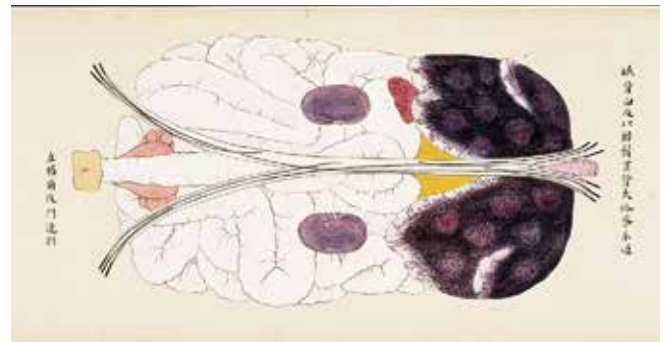
一蕪斎芳幾
「東京日々新聞 851号(戦死した弟の幽霊)」



歌川国芳
「よき事をきくみみづくや花の春」
疱瘡絵



五雲亭貞秀「痘瘡、麻疹、水痘」



菅原誠意「婦人臓図」

関連イベント

■担当学芸員によるギャラリートーク

9月16日(土)、30日(土)
14時から
観覧券をお持ちの上、7階展示室入り口にお集まりください。

■美術館ボランティアスタッフによるギャラリートーク

会期中毎週水曜日 15時から
(10月11日のみ14時から)
観覧券をお持ちの上、7階展示室入り口にお集まりください。

同時開催

◎「～東海道・木曾街道～広重 二大街道浮世絵展」

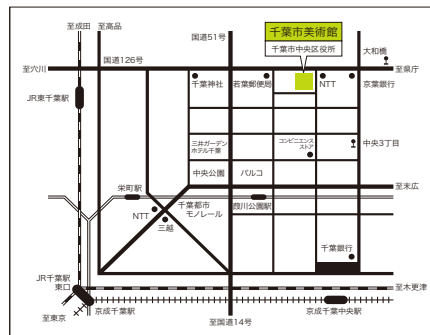
9月5日(火)～10月9日(月・祝)
千葉市美術館7・8階展示室
企画展につき別料金になります。

◎「美術館ボランティアが選ぶ 千葉市美術館コレクション」

10月17日(火)～12月3日(日)
千葉市美術館8階展示室
同時開催中は、ひとつの観覧券で両方ご覧いただけます。

次回展予告 「浦上玉展」

11月3日(金・祝)～12月3日(日)



[交通案内]

- ◎JR千葉駅東口より徒歩約15分/千葉都市モノレール県庁前方面行「葦川公園駅」下車徒歩5分/バス乗り場7より大学病院行、または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩2分/JR千葉駅へは東京駅地下ホームから総武線快速千葉方面行で約42分
- ◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- ◎東京駅から車で約3km(京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ貝塚C下り国道51号を千葉市街方面へ約3km)
- ◎地下に駐車場あり



千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8
TEL 043-221-2311
http://www.cma-net.jp